

第2回 京橋駅周辺地域部会 会議要旨

■日 時：令和6年12月26日（木） 午後3時から午後5時まで

■場 所：まるよし精肉店 都島区民センター

■出席者：別添の「出席者一覧」のとおり

■次 第：1. 開会

・開会のあいさつ

2. 議題

・大阪城公園周辺地域まちづくり方針（素案）について

3. 意見交換

4. 閉会

■要 旨

1. 開会

部会長：正垣 大阪市計画調整局開発調整部長

- ・ それでは、皆様おそろいですので、第2回の京橋周辺地域部会を始めさせていただきます。
- ・ はじめに、大阪市の計画調整局長の山田より、挨拶をさせていただきます。

山田 大阪市計画調整局長

- ・ 本日は、都市再生緊急整備協議会の京橋駅周辺地域部会にご参加いただきましてありがとうございます。
- ・ この地域部会は、今年1月に開催しまして、京橋駅周辺を主な対象地域として、現状や課題などについてご意見を賜ったところです。
- ・ その後、森之宮周辺では、新しくできる大阪公立大学を核として、大阪メトロの新駅もできるということで、「1.5期開発の開発方針」を令和6年5月に示させていただきました。
- ・ 大阪府・市でも、2025年大阪・関西万博後に速やかに大阪の成長に向けて取り組みを実行に移すため、「万博レガシー」の継承や「世界に存在感を発揮する国際都市・大阪」の実現をめざし、都市魅力・観光やイノベーション等をテーマに新たな大阪の成長戦略「Beyond Expo 2025（にいぜろにいご）」の検討を進めており、大阪城公園周辺地域は、東西都市軸のヒガシの重要な拠点であると認識しています。
- ・ まちづくりの具体化や検討が進む京橋駅周辺、森之宮周辺に、隣接する大阪ビジネスパーク駅周辺も含め、一体的に捉えてまちづくりを進める必要があると思っているところです。
- ・ また、基盤の方でも、JR片町線・東西線の地下化や、それに伴う広域的な道路、歩行者空間なども、考えていくことができるタイミングになってきています。

- ・ こうした状況を踏まえ、3 エリアを一体的に捉えて、例えば、国際的な集客の観点、イノベーションの実現、周遊性・回遊性、この3つの観点からまちづくりを考えていく必要があると思っております。事業者、行政、まちづくりに関わっていただいている皆さまの共通の指針になるものを作りたいということで、本日の資料は、「大阪城公園周辺地域まちづくり方針」という少し幅を広げた形で示させていただきました。
- ・ 本日は、皆さまから、方針の内容について、多面的に、ご議論を賜りたいと思っておりますので、活発なご議論を期待して、私の挨拶とさせていただきます。

2. 議題

- ・ 大阪城公園周辺地域まちづくり方針（素案）について

事務局

- ・ 資料説明

- 資料1 大阪城公園周辺地域における一体的なまちづくり方針策定の必要性
- 資料2 大阪城公園周辺地域まちづくり方針（素案）
- 資料3 今後の進め方

3. 意見交換

部会長：正垣 大阪市計画調整局開発調整部長

- ・ それでは、本日の内容を通しまして、皆様に順にご意見、ご質問を伺って参りたいと思っております。

嘉名 大阪公立大学大学院工学研究科教授

- ・ 大阪城公園を中心に、周辺にキャラクターが非常に異なるエリアが隣接しており、これらが全体として1つの、連携したまちづくりができればいいと思っていたので、京橋だけではなく全体ということは、私自身はいいことだと思っています。
- ・ ただ一方で、今回はとりあえずバインドされたというか、ひつついた状態かと思っております。これからどのように具体的に連携していくのか、相乗効果を出していくのかということについて、今後しっかり議論する必要があると思っています。
- ・ 少し思っていることを申し上げますと、1つは、都市再生緊急整備地域のエリアではないところも含めてですが、大阪城公園周辺は、大阪の代表的な中核的な機能がたくさん集積しているエリアでもあると思っています。それがかなり老朽化しているところもあり、NTT西日本が本社移転されたということも、そういうことだと思います。これからは機能更新がされていく状況の中で、この大阪城公園周辺で、いかに機能更新を図っていきながら、国際競争力のある都市を維持していくのかということは、非常に重要なテーマだと思っています。それを考えていくと、現地建て替えというよりは、周りで連携合って、建て替えを進めていく、まさに大丸有が行ってきたようなことと近い発想が、これから必要になってくるのではないかと考えています。

- それから2つ目はこれから考えていくことで言うと、今回目標が3つ定められており、それぞれに特徴的だとは思っていますが、カーボンニュートラルや、気候変動、防災なども必要だと思っています。例えば大阪ビジネスパークではこれまで環境に資する取り組みをしてきたこともあり、1つ全体エリアとして考えるにあたって、もう少し考えるべきこともあるのではと思っています。
- それから3つ目は、エリア同士の繋がりをどうしていくかということだと思っています。森ノ宮もそうですし、京橋と大阪ビジネスパークはデッキで繋がっているが、玉造筋線の都市計画の廃止もあって、この辺りどうやって、具体的にエリアとしてつなげていくかということこれから考えていく必要があるかと思っています。それに関連してエリア全体のウォークアビリティをどう高めていくか。とりわけ京橋については、JR片町線・東西線の地下化に伴い東西線より南の方はこれからウォークアブルのまちづくり等新しく進んでいくと思うが、京阪京橋駅の北側は京橋公園があって、QUINTBRIDGEがあるというエリア、それから大川の方もそうだが、もっとエリア全体の回遊性を高めてくみみたいな視点が必要だと思います。そちらは、普通の既成市街地なので、そういうところとちゃんと繋がっていくという関係があると思います。森ノ宮でいうと鳴野等東側との繋がりもできるかと思っています。
- 最後に、京橋駅周辺は水面も多く、新しくユニークな公共空間がしっかりできてくると思いますし、大阪城公園自体も入れてもいいのではと思っていましたが、大阪ビジネスパークのすごく豊かな公共空間も含めて、公共空間を使ったチャレンジや活動は、非常にしやすいと思いますし、森ノ宮ではモビリティを特徴として持っていこうということもあるので、そういう豊かな公共空間を使ったような社会実験でスタートアップ等を育成しようとするなどがこのまちの特色に繋がればいいなと思っています。

野澤 明治大学政治経済学部教授

- 資料1のP7で全体としてヒガシという位置付けの中で、新しく様々な大規模整備や、開発が動いていくことがよくわかるのですが、リスクとしては余りにも様々なことを整備することによって、この地域らしさがなくなってしまう、東京と変わらない空間になってしまうのではということに危惧しています。
- 国際競争力の強化というところは、例えば京橋ですと、様々な居酒屋があつてごちゃごちゃしたところがこの京橋らしさであり、森ノ宮、大阪ビジネスパーク、それぞれの地域特性、地域の文化をどうやって育むような開発に誘導していくのかという視点もいるのではないかと思っています。つまり東京と同じようなものを作っても仕方がなく、ここの地域にある文化や歴史、ごちゃごちゃしたところをどうやって引き出すかというところもこの方針に入れる必要があるのではと思っています。
- 実際に国では、短期的な収益や経済合理性だけでなく、もう少し中長期的な観点から、その地域文化を育む、新しい時代の都市再生のあり方を議論しようということで、12月から、都市の個性の確立と質や価値の向上に関する懇談会というのが国交省で立ち

上がっており、私もその座長をさせて頂いてますが、こうした動き・視点からも、京橋駅周辺は本当に地域に魅力的な場所がたくさんあるので、そこをどうやって、よりよいものにしていくかという発想を入れていただければと思います。

- ・ その中で、例えば全体としてのデザインのガイドラインや、ルール化、そしてその協議の仕組みも入れ込んでいながら、それぞれが自由に機能更新して大きなビルを建てていたり、再開発することによって、テナントが高級化してしまいこの地域らしい魅力がなくなってしまうことにならないようなルールづくりや、協議の仕組み、そして例えば賃料なども京橋らしい店舗も継続できるような事業スキームの創意工夫をすることこそが、公共貢献になるという発想で、地域らしさや地域の個性の充実に向けて今後進めていただければと思います。
- ・ 先ほど嘉名先生からあった大丸有のような連鎖型の機能更新はここでは必須になってくると思うので、それだからこそ、それぞれのエリアで、その個性に応じた、何かしらのガイドラインや協議の仕組みというものが必要ではないかと思っています。それが個々のエリアの差別化になっていくと思いますので、新しく整備していく「ヒガシ」というものが、これまでの個性や歴史等を育む形での都市再生に向かうという流れになっていけばと思っています。

吉田 大阪公立大学大学院工学研究科准教授

- ・ 私の方からは、2点ありまして、1つはインバウンドが現在、大阪城公園に年間1100万来ているということですが、この地域の中で、将来どれぐらいの人を受け入れていけないかによって、やり方が全然変わってくると思っています。ですので、将来、今の諸外国の観光の動向も踏まえると、国が言っているのは、おそらくインバウンドの数を倍にする等、もっと観光客を増やすことになると思いますが、その時にここがどの程度人を受け入れようと考えているのか。今まで大阪城は、大阪の外国人観光客の中でかなり高いウェートを占めていると思いますが、それらを例えば目標値の中で増やすとしたら、そのアクセスの改善も含めてどう考えていくべきなのかを算数的なところでもいいですが、それがどのように駅や公共空間と繋がっていくのかということを想定しているかということを考えていただきたいです。
- ・ そのときのポイントとして、今の方針素案には水辺までは書いていますが、河川や、大阪が持っている水の都というイメージを、中長期的に復活させる、もしくは、より強化していくということが、ようやく機運が高まっているところもあるので、こういったところをどのように位置付けていくのかといった具体化も関連しながら考えていくべきではと思っています。
- ・ 新しいこういったところでの、土地利用、それから機能の中でも、大阪の皆さんが感じている閉塞感というのは、国際的な都市の中で、何が足りないのかということや政治の世界も含めて探していると思いますが、それはもう大体具体的に何ができてないのか、何がないのかというのが、わかってきていると思います。その中でこの地域が具体的に

に、そういう新しい機能に対して、エコシステムも踏まえながら、どのようにこの方針に位置付けていく可能性があるのかを、ちゃんと考えていただけているのかを考えていただきたいと思います。

- ・それがこれだけ大きなエリアですと、必ずしも既存のものがなくなるとか、コンセプトがなくなるということはないと思いますが、そういった0から1のものが、大阪の中の成長産業の中での位置付け、それから、ここがどのように生き残っていこうとしているのかといったことが伝わるような新たな都市機能は何なのかというところを、もう少し具体化していくところにつなげていくのが次のステップだと思いますので、周辺はもうおそらくご説明いただいた通りの状況かと思いますが、具体的な空間とともに機能配置していくときに、そういったところから、議論いただけたらと思います。

大浅田 京阪ホールディングス株式会社 執行役員 経営企画室まちづくり推進担当部長

- ・民間企業にバトンタッチしましたので違った視点のお話をさせていただければと思います。先日、アナリストの方とお話をする機会があり、もう建物、箱モノを作って、儲ける時代が終わったと言われていました。人口減少になっていくこともありますし、やはり見ておられるのは、その投資をしてどんな社会課題を解決するのかというところで、そのような視点で投資判断する時代になってきているのだと思います。開発した後に入れていくテナントも結構そこを見えています。いい建物だから、京橋駅だから入ろうではなく、どんな課題を解決し良いまちになるのかを見通して出店を決められ、一緒に頑張ってみようと思えるかどうかで判断されています。そういった一緒に賑わいをつくってもらえるような企業にも、参画していただけるような流れを作っていく必要があると思っています。
- ・そういう意味では今回の素案の資料の方向性は我々の意見を反映していただけていると思いますが、今申し上げたような解決すべき課題をしっかりと記載いただきたいと思います。例えば P10 の基盤整備方針ということでもまさにこういうことですが、この方針のベースとなっている課題は何なのかということです。その課題を顕在化するということと、共有するということは非常に大事だと思います。民間の事業者も共有する必要があります、その向こう側のテナントや投資家、金融機関に対しても我々が説明できるような共通した課題が何かをしっかりと追記・明記いただきたいと思います。交通結節点の整備と書いてありますが、それがなぜ必要なのか。例えば、国際競争力、観光の観点で、今の京橋では観光バスが寄り付けない。そういう課題があることをしっかり出していき、地域の方々にもそういう説明が要るのかと思います。
- ・もう1つ、社会インフラが老朽化していることがわかっています。具体的には下水管。東野田抽水場が近くにあり、京阪とJRの乗換で人が行き来する場所に、幹線の下水管があり、昭和初期のもので老朽化していると聞いています。これが複雑に入り組んでいて、京阪の敷地、軌道の下も横断しています。これを解決しないと、新しく建物を建てることができません。そもそもこのエリアは内水災害のハザードマップにも入ってお

り、高潮のときも場合によっては水に浸かるような場所になっています。そういったことを、今回のまちづくりで解決し、社会課題の解決を官民でやるということを明記し、顕在化して共有するというのを、ぜひお願いしたいと思います。そうすることで、我々民間事業者が、先ほど野澤先生からあったとおり、勝手に好き放題開発するのではなく、協力しながら進めていけるかと思っています。

明瀬 西日本旅客鉄道株式会社 地域まちづくり本部担当部長

- ・ 前回の議論を踏まえて、わかりやすくまとめていただいたと思います。
- ・ まず、京橋駅周辺というのは大阪第4のターミナルであり、京都や神戸、けいはんな学研都市といった関西広域拠点をつなぐヒガシの玄関口として地域とつながることと、関西国際空港や新大阪駅といった広域交通拠点のアクセス強化に資すると思います。また、駅とまちとが一体となる駅前空間を整備することが必要と書いてありますが、まさに我々もそれについては同様の考えです。
- ・ 当社においては、京橋駅以外にも大阪城公園駅や森ノ宮駅、大阪城北詰駅、そういった大阪城公園にアクセスしやすい駅を複数有していますので、京橋駅周辺を国際的な集客・滞在・商業空間及びにぎわい拠点として国際性を高めるとともに、これらの駅資源も活用しながら、大阪城公園周辺地域全体が国際観光拠点としてより多くの方に、そしてより多様な人材が集まるように進めていければと考えています。
- ・ イノベーションについてですが、QUINTBRIDGEや、森之宮キャンパスがあるということで、こういったイノベーション機運が高まっているというところではありますが、これらをさらに生かして、国際的なイノベーション拠点を形成するためには、この京橋駅周辺がハブとなって、それぞれハード・ソフトで繋がる施策をどう具体化していくことが肝要だと考えています。
- ・ そして今回、JR 片町線・東西線の別線地下化について記載がありました。地域内の回遊性向上や南北の幹線道路である豊里矢田線が整備されることによって、地域分断が解消されることに加えて、この豊里矢田線によって大阪城公園周辺地域の交流促進にも繋がる、そういった観点で、この地下化の意味はとて大きいととらえており、具体的なところを考えていく必要があると思っています。
- ・ そして最後に、土地利用の観点で、国際的で多様な機能集積を行うために、今言いました基盤整備を踏まえて、土地区画整理事業等によって大街区化を図って、この京橋駅周辺に生み出される大きな土地を、一体的に活用していくことの具体化については今後検討を深める必要があると思っています。

松下 大阪市高速電気軌道株式会社 広域拠点開発部長

- ・ 今回、まとめいただきましてありがとうございます。
- ・ 東西軸のヒガシの拠点として位置付けている森之宮、各鉄道会社と接続する京橋など、これらを含む大阪城公園周辺地域のまちづくりは当社にとっても非常に重要なものと考えています。国際観光拠点の強化や、人・モノ・情報の交流の促進の点でも、物理的

に人や物が移動するということは今後も極めて重要だと考えており、エリア内に複数の路線を持っている当社としては、その移動利便性を高める、またそれによってまちを良くしていくという貢献ができる要素は多くあると考えており、力を尽くしていきたいと思えます。

- ・ また、都市計画道路豊里矢田線の整備、それとあわせて駅前整備に合わせた地下鉄やバス、オンデマンドバス等の次世代モビリティの交通結節機能の強化をしていこうと考えていますが、それらによりさらに交通利便性が高まり、この周辺地域だけではなく、関西広域からのアクセスの強化、また、このエリア及び隣接する地域、そちらへのアクセスの強化に繋がっていくということを実現できると考えています。
- ・ 今回、京橋に関する議論ですが、P9 に記載の森之宮周辺の土地利用の方針にあるような「鉄道、バスなど、様々な交通を有機的に結ぶ交通結節点となる交通広場」というものを当社も森之宮等での実現を考えており、オンデマンドバスや自動運転バスなどを初めとした次世代モビリティを導入して、次世代型の交通広場を実現できるように取り組んでいきたいと考えています。森之宮周辺だけではなく、大阪城公園周辺地域全体として、京橋エリアや森之宮エリアに携わる当社といたしましては、それらを連携して取り組むことに力を入れていきたいと思っています。
- ・ 森之宮エリアの大規模集客・交流施設にこられるお客様や、大阪公立大学のキャンパスに来られるお客様、それらの方々によって形成される多様な交流の場を、回遊性を向上させることにより、京橋駅周辺にも広げるということは当社にとっても重要ですし、京橋周辺エリアの賑わい創出に直接的に貢献できるものと考えています。
- ・ 今申しあげましたように、各地域の整備が相乗効果を引き出せるようにすることは、非常に重要であり、またそうしていく中で各エリアがそれぞれ特色を持つこと、その上で、この大阪のヒガシの新たな顔になる魅力的なまちづくりが重要だと思っており引き続き携わっていききたいと考えています。

井下 大阪地下街株式会社 理事兼施設部長

- ・ 大阪地下街では大阪市内のターミナルに地下街をもっており、この京橋駅周辺では少し規模は小さくなりますが、京橋公園の下のコムズガーデンを運営しています。コムズガーデン自体は花博のときにできた施設であり、現状、老朽化も目立ってきており、全面的なリニューアルを実施中です。来春の完成予定を目指しているところです。工事に関しましてはこの10月から施設を全面閉鎖しており、皆様方に大変ご迷惑をおかけしているところではありますが、予定通り進んでいます。また大阪市でも同時に京橋公園の再整備を実施しており、来春にはこの京橋公園、コムズガーデン一体の整備がなされることとなり、この京橋エリアの賑わい創出に寄与できるものと考えています。

山岸 イオンモール株式会社 エリア開発統括部 近畿・北陸開発部 部長

- ・ FULALIKYOBASHI という施設を暫定利用という形で運営しており、一定期間となりますがイベント広場や食の空間として展開しております。メインとしては様々なイベント

を実施し、様々な方との交流を促進していくことを目的としております。その中で、今年の夏に地域団体の皆様より、夏まつりの盆踊りやる場所がないため、ぜひ検討してくれないかというお話があり、盆踊り大会を開催させていただきました。当日は地域の皆様が集まり非常に盛況でした。ぜひ来年もできたらというご相談をいただいておりますので、前向きに取り組んでいきたいと思っております。また、地域の商店街連合会の方からも商店街だけでは商店街に人が回ってくる機会を生みにくいというご相談をいただき、年末にコスプレイベントを開催します。コスプレをした方々が商店街からFULALIKYOBASHI の施設まで練り歩くイベントとなります。地域の皆様から、FULALIKYOBASHI を使って様々なことをやってみたいという相談をいただくことが多くあります。再開発を行う際には小売業出身のデベロッパーでもあるため、地域の住民の皆様や沿線の皆様がどういったニーズを持たれているかを踏まえた上で、さらに日本に来るインバウンドの皆様は何を期待して日本へ来てさらに大阪には何を期待して来るのかを掘り下げながら、次の施設開発につなげていければと考えております。

- ・ また、建築費が非常に高騰しており、我々もできる限りの公共貢献には取り組んでいきたいと考えておりますが、その公共貢献のあり方についてはどういった取り組みの内容が公共貢献に資するかという点について、行政の皆様には検討をお願いしたいと思います。

大林 西日本電信電話株式会社 経営企画部 CRE 推進室 室長

- ・ 当社は 2021 年に法円坂から、今の京橋に移転し、QUINTBRIDGE というオープンイノベーション施設を運営しております。今、法人会員で約 1600 組織、個人会員が 2 万 3000 名、1 日当たり 350 名程度が平均的に来ており、オープン以来、増加傾向であり、大変活況を呈しています。その運営をしながら、今後、森之宮地区に公立大学が開設されることで、学生の方が多く来ることとなります。また、QUINTBRIDGE にも一定数の大学生等 20 代の方も数多くいるため、例えば、うめきたや難波、中之島にはない、京橋の特徴として、そういう 20 代、学生を中心とした若者が賑わうようなまちをめざせないかと考えています。若者のまちになるとオープンイノベーションのフィールドも広がり、新たな協業として、新しい技術の芽ができるのではと思っています。若者が集まるとなった際に、京橋はごちゃごちゃしたほうが良いというコメントもありましたが、例えば、アーバンスポーツ施設のようなものが、京橋らしいのではないかと考えています。
- ・ 我々の会社の本業が ICT 技術の会社であります。京橋エリアにおいて、新たな実証実験などを企画されるようなことがあれば、ぜひ、弊社の ICT 技術もしくは QUINTBRIDGE に集まっているベンチャー企業等を前向きに、お手伝いさせていただきたい。その際には、ぜひ関係各所との連携とご支援の方をお願いしたい。

真田 内閣府 地方創生推進事務局 参事官

- ・ 私どもは、都市再生緊急整備地域、それから特定都市再生緊急整備地域の制度を所管していますので、その制度を所管する立場から意見を申し上げたいと思います。

- ・ まちづくり方針の内容自体については異論ございません。制度の所管という立場から2点ほど、お願いをさせていただきたいと思います。
- ・ 1点目は、特定都市再生緊急整備地域については、大阪市内ですでに、大阪コスモスクエア駅周辺地域、それと大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域の2つの地域をすでに指定しています。今回、この大阪城公園周辺地域も、この特定化を目指していこうという方針だと思います。さらに今後考えますと、新大阪駅周辺地域についても、おそらく特定化を目指すのではと感じています。以上のことから、大阪市内、最終的には4つの特定都市再生緊急整備地域が存在することになるのだろうと思っています。そういった将来を考えると、現時点でこの4つの特定都市再生緊急整備地域を大阪市内で持つということについての全体像、全体の構想を今の時点でしっかり整理をしておいて欲しいということが1点目です。具体的に言うと、例えば、まちづくりの方針の目標2の中では、国際的なイノベーション拠点の形成という言葉が書かれています。一方で、特定都市再生緊急整備地域でいくと大阪コスモスクエア駅周辺地域が該当すると思いますが、そのエリアにおいて、大阪府・大阪市・堺市で作られたまちづくりグランドデザインを見ると、夢洲・咲洲エリアの方でも、イノベーション拠点の構築、国際観光拠点の形成という言葉が書かれています。つまり、大阪コスモスクエア駅周辺と大阪城公園周辺地域で、イノベーション拠点形成、国際観光の拠点を形成という、同じような言葉が見られます。そうすると、イノベーション拠点でも、異なる分野のイノベーションを目指していくのか、それとも何か同じ分野のイノベーション拠点を目指し、連携・融合させていくのかなとなります。もし、同じような分野で国際的なイノベーション拠点を指すとするエリア的にも近いので、共倒れするのではと思います。2つの拠点について、同じようなイノベーション拠点の形成を目指していくということが、成立するのかということが、例えば特定化目指すにあたって、指定に先立つ有識者からの意見聴取のプロセスの中で指摘される可能性もあります。
- ・ 2点目につきましては、すでに先ほど申し上げましたように、特定都市再生緊急整備地域は大阪市内で2ヶ所、すでに指定済みとなります。今後、この大阪城公園周辺地域について、特定化を目指していくに当たっては、すでにこの特定の指定をしている大阪コスモスクエア駅周辺地域や大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域という2つの地域の国際機能の集積、つまり、地域整備方針に書かれていることが実現できているのかどうかということも問われることとなります。すでに指定済みの大阪コスモスクエア駅周辺地域などの、国際機能の集積が芳しくないのであれば、そこが芳しくないのに、なぜ大阪城公園周辺地域まで、特定化を目指すのかという議論にもなりかねないなど考えています。こういったことから、大阪城公園周辺地域の特定化目指すのであれば、すでに指定をされている大阪コスモスクエア駅周辺地域や大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域の国際機能の集積の現状・進捗について地域整備方針どおり、機能が集積し、順調に進んでいるということの進捗確認をしてほしいと思います。

青山 国土交通省 近畿地方整備局 都市整備課長

- ・ 今回のこのまちづくり方針について、大阪城や、京橋、森之宮等、それぞれ個性や特色が異なるエリアで、それぞれの個性・特色を活かしつつ、全体として一体的に総合的な行っていくための方針というものであり、非常に大切な取り組みなどと思い、引き続き検討を続けてほしいと考えています。このまちづくり方針はどちらかというとハード整備について重きを置かれている計画なのかと思いましたが、あわせてハードを整理した後の官民連携したソフト面でどういった取組を行うか、また、市民を巻き込んで進めていく際にはある程度視覚化して関係者で共通のビジョン等イメージしやすい形で発信していくことも非常に大事だと思っています。

大塚 国土交通省 近畿運輸局 交通企画課長

- ・ P7 の右下に記載のとおり、人中心の駅前、交通結節点やロータリーができるとのことだが、ウォークブル、歩行者を前提に考えると、交通結節点のロータリー等も考えていく上で、利用するであろうバス事業者やタクシー事業者の意見もしっかりと聞いていただきたい。
- ・ もう 1 点。第 1 回部会の参考資料 1 の中に記載があった交通施設のバリアフリーについて、各事業者がそれぞれ実施すると思うが、まち全体としてのバリアフリーは自治体が行っていくことになると思うので、引き続き気を配っていただきたい。

高梨 一般社団法人大阪ビジネスパーク協議会 運営委員長

- ・ まちづくり方針については、これで良いと思います。大阪城公園周辺の地域ということで、大阪ビジネスパーク駅周辺も一員として位置付けられており、責任も感じますし、ありがたく思っています。ただ大阪ビジネスパーク駅周辺につきましては、開発の段階として、今大きな形で検討されている新たなポテンシャルアップに合わせて開発促進などを図っていければと感じています。大阪城公園周辺地域は京橋周辺のように既成市街地で少し小さな街区などが集まっているところ、それから大阪ビジネスパーク駅周辺のように既成市街地ではあるが、区画整理し、スーパーブロックで構成されているところ、それから森ノ宮駅周辺の今後開発をしていくところという大きく 3 つの特色ある拠点を大阪城公園を挟みながら一体として考えていくことで、他のエリアとの違いがあるまちづくりになっていくと考えています。
- ・ その中で東西軸のヒガシの拠点ということで、3 つの目標、都市魅力交流・観光・イノベーションということですが、特に大阪ビジネスパーク駅周辺は、名前の通りのビジネスパークであるため、観光についての直接的な拠点という形になり得るかどうかはありますが、特に都市魅力交流、イノベーションについては、協議会の中での各地権者企業も考えているため、協議会全体で特に力を入れていきたいと思っています。P4 の目標 1 について、インバウンド含めた観光拠点ということで大阪ビジネスパーク駅周辺としては、観光のディスティネーションになり得るかということではありますが、都市機能としては 2 つの大規模な都市型ホテル、それからホール・美術館などを持っているた

め、回遊性、あるいは滞在機能の強化というところで、関わっていけると思っています。

- ・ P5 の目標 2 について、大阪ビジネスパーク駅周辺は、ICT 系の企業がかなり集積しているため、その中の企業の一部にはイノベーション拠点の施設を持っているところもあります。そういったところを協議会の中で連携させて目標 2 に向かって進めていければなと思っています。
- ・ P7 の土地利用の方針について大阪ビジネスパーク駅周辺はスーパーブロックを主体とした豊かな公開空地を持っています。公開空地や協定緑地等の公共的な空間を活用した実証フィールドということで公立大学との協業という形で進めていけるのではと思っています。またプロムナードについては、国土交通省のまちなかウォークブル推進事業のエリア指定もいただき、植栽整備等、美装化、環境の強化を図り、さらにウォークブルの要素を充実させていきたいと思っています。
- ・ P10、11 の基盤整備の方針について、東西線の別線地下化による地区内の南北導線の強化、それから、玉造筋の大阪ビジネスパークに人が入ってくるためのルートを今後整備していくということなので、これに対して、受け手側として何ができるのかというところを、大阪ビジネスパーク協議会として十分に考えていきたいと思っています。
- ・ 目標 3 では、ぜひ水上交通ネットワークも追加いただきたいと思っています。多様な交通手段ということで第 2 寝屋川は大阪城公園との接点を持った船着き場があるため、今後、水上交通ネットワークというものは、非常に拠点のポテンシャル上げるものになるのではないかと考えています。

柴山 公立大学法人大阪 本部事務機構企画総括部長

- ・ 内容については異論ありません。
- ・ 我々、大阪公立大学としまして、来年の 9 月に、大阪市内で唯一の総合大学のキャンパスを森之宮に構えます。大阪城東部のまちづくり方針にありますように、イノベーションコアを実現する新キャンパスとして、さらにこれから進められる 1.5 期開発の開発とともに、この地区のイノベーションに寄与していきたいと考えております。
- ・ さらには、この地区の北側のもう 1 つのイノベーションコアである QUINTBRIDGE があります。この 2 つの拠点の機能が、他地域にはない差別化要因になるのではないかと考えています。この大学と QUINTBRIDGE を結ぶ直線状に、京橋駅周辺地域、大阪ビジネスパーク駅周辺地域があり、この位置関係を生かして、どう連携していくかということ今考えています。本学として、多様な主体の連携をもってマルチコクリエーション、我々はこれをマルコプロジェクトと呼んでいますが、この取組を進めています。産学官民の共創で、例えば、スマートシティの取り組みや、スマートエネルギー、それらの新技術の開発、さらにはベンチャー創出、海外ベンチャーとの連携など、イノベーション実現に向けた取り組みを、この地域から進めていければと考えています。ぜひまた皆様、協力して取り組みを進めていきましょう。

西江 大阪府・大阪市 大阪都市計画局 計画推進室長

- ・ 大阪城公園周辺地域における一体的なまちづくり方針の策定については異論ありません。同じ目標を、3つのエリアで掲げることによって、それぞれの地域の特色や、相乗効果や、連携といったところがよりわかりやすくなると思うので、このまちづくり方針の策定という方向性でやっていただけたらと思っています。
- ・ 特に京橋地区のまちづくりの視点として2つ、1つは国際競争力の強化。もう1つは安全安心のまちづくり。この2つの視点については京橋のまちづくりを考える上で非常に大事な視点だと思うので、ぜひ土地利用の方針などに反映していただきたい。また、本素案について、昨年の議論を踏まえて加筆をした方が良いと思います。言葉が漏れている部分が多々あるため、加筆していただいてより良いまちづくり方針になるのではないかと思います。特に、京橋のConnective City京橋のコンセプトについては、あれだけ議論して練り上げたものなので、もう少し大事にしてほしいと思います。

上塚 大阪市建設局企画部長

- ・ 建設局は都市インフラの整備や、維持管理を所管している部署であるため、その観点からコメントをさせていただきます。
- ・ P10、11で示しているJR片町線・東西線の地下化事業についてです。資料に記載いただいたように地域分断の解消、それから駅機能集約化による土地利用価値の向上、こういったものへの認識は我々も同じです。ただこの事業に関しては、現在、調査検討中です。一方で、調査検討中の状況において、今後工事を進めていく上では、別線地下化は一定のメリットがあるのではと考えながら取り組んでいます。これからまちづくり方針が策定されて、これを1つのきっかけとして事業をしっかりと進められるよう準備することが我々の役割であるため、遅れないように進めて参りたいと思います。
- ・ 2点目ですが、建設局は、公園や下水道施設等も所管しています。京橋公園のリニューアルにすでに取り組んでいます。また、下水道老朽という話もありましたが、京橋では東野田抽水場、森之宮周辺地域では中浜下水処理場という大きな施設があります。これまで下水道の施設はどちらかというともち中にありながら、少しまちから隔離されたような位置づけであったかと思います。この下水処理場の更新事業の検討を進めていく中では地域に貢献できるようなこと、またカーボンニュートラル等、最近のトピックにしっかりと対応していけるような施設になるべく検討を進めています。施設の老朽化を原因とした機能の低下を招かないよう、しっかりと機能維持しながら、時代に応じたレベルアップを図っていけるように考えています。

梶川 大阪市建設局道路河川部長

- ・ 建設局の街路担当として、基盤整備のうち、JR片町線東西線連続立体交差事業と、都市計画道路豊里矢田線整備事業を担当しています。まちづくり方針に記載されているとおり、当該エリアは、JR片町線・東西線が地上を東西に走行しているため、地域を南北に分断する要因となり、当該エリアの大きな課題の一つとなっています。JR片町線東西線を地下化することによって地域分断が解消され、京橋駅周辺のまちづくりが

大きく変わると考えているので、しっかりと進めていきたいと思ひます。

- ・ JR片町線東西線連続立体交差事業は、現在事業休止中であるが、事業再開に向けて引き続き調査検討並びに関係者との協議を進めたいと思ひています。
- ・ また、もう 1 つの事業としまして都市計画道路豊里矢田線整備事業ですが、すでに事業中で鋭意事業を進めていますが、本路線が整備されれば、南側の大阪城東部地区から、国道 1 号より北側へいくと、淀川を渡って最終的には新大阪まで繋がっていく、非常に重要な路線ができることとなり、京橋駅周辺地区へのアクセス向上も期待され、まちづくりに貢献できると思ひます。建設局として、これらの整備を進めていきたいと思ひます。

平原 大阪市都市整備局市街地整備部長

- ・ 私は、区画整理を含めた市街地整備事業を担当しており、その立場でコメントいたします。
- ・ 大阪だけの話ではないですが、全国的に戦後の高度経済成長期に整備した都市機能の更新時期が来ています。先ほど嘉名先生、野澤先生から全体のデザインをしっかり考えながら、大丸有のような連鎖型の都市機能の更新が必要ではというコメントがありました。また、吉田先生からは、インバウンドの量を数値として見極めないといけないというコメントもありました。それによって道路や広場という公共空間が、今足りているのかいないのかといった検討も必要になると考えています。その連鎖型の都市機能更新や道路、広場といった公共空間の確保の実現手段の 1 つとして、区画整理事業が考えられないかと思ひています。区画整理事業は、個人施行や、組合施行、大丸有で実施したUR施行等、民間の創意工夫によって、スピード感を持って実現することができる事業のため、私たちもその中で、しっかり議論、検討に加わっていききたいと思ひます。

伊藤 大阪市都島区役所副区長

- ・ 本日ご説明があった大阪城公園周辺地域まちづくり方針の素案については、都島区では主に京橋駅周辺エリアが含まれています。中でも京橋公園は万博開催を機にリニューアルオープンされるため、地域の方々も、大変期待しています。
- ・ 現在、都島区では、都島区の将来像を示すまちづくりビジョンを策定すべく、検討を進めており、京橋公園など京橋エリアの魅力づくりや、エリアの価値の向上、にぎわい、憩いの創出などに取り組んでいきたいと考えています。ビジョン策定に当たり、大阪城公園周辺地域まちづくり方針を踏まえながら進めていきたいと考えているため、部会メンバー、有識者の先生方におかれましては、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

角田 大阪市城東区役所副区長

- ・ 城東区はおそらく森ノ宮の方が一番面積的にかかっており、メインのところかと思ひます。今般、公立大学が来るということで非常に期待が高まっています。区民、市民の住まい方やまちづくりのあり方について課題が山積みとなっているため、公立大学やNTTのQUINTBRIDGE等連携いただければありがたく思ひます。

- ・ また、京橋駅周辺では区民よりかつてのダイエーに様々な店があったという話を聞いて、寂しそうにされていました。今回の検討の結果よりよいまちになることを祈っています。

小林 大阪市中央区役所副区長

- ・ 中央区役所としては、主に大阪ビジネスパーク周辺と大阪城公園、こちらがメインで関わってきます。大阪ビジネスパークは、ビジネスが非常に集積したエリアです。またビジネスだけではなくて、ホテルやホールがあるエリアです。また、ビジネスだけではなくて、休日には京橋駅の方から大阪城公園に抜ける動線があります。また、大阪ビジネスパークを通りながら買い物や、飲食といったこともできます。この資料の中でも、特に歩行者ネットワークを強調しており、これが非常に大切な視点であると考えており、現状の動線だけではなく、それを充実させることによって、賑わいがますます増していくと思います。
- ・ また森ノ宮周辺で、大学が開設されると、その風景も変わってくると思っていますので、南北だけではなく東西のネットワークも、今後、重要になってくると思います。また、大阪城公園は広域避難所に指定されているため、こういう歩行者ネットワークを整備することによって、防災面でもこのエリアは強化されていくと期待しています。

山田 大阪市計画調整局長

- ・ ご意見を伺って、今の時点でお答えできることについてはお答えさせていただきたいと思います。今回、目標を3つ掲げました。これは基本的には第1回京橋駅周辺地域部会で議論があった京橋を中心にどうしていくかという議論で、先ほど西江室長からConnective City 京橋というコンセプトの話があり、京橋中心に考えた際には良いと思いましたが、大阪城公園周辺地域全体で考えたときに、このポテンシャルやこれからの大阪の成長で何が必要かということ考えたときに、この3つがふさわしいと思いました。Connective City 京橋については、昨年からの経過も踏まえて、引き続き文章で記載をしています。また、嘉名先生から防災などについてコメントをいただき、抜けていたため、追記していきたいと思います。
- ・ 内閣府の真田参事官から、特定都市再生緊急整備地域であるコスモスクエアでもイノベーションが記載されており、大阪城公園周辺のイノベーションとの差別化が図れているかというご指摘いただきました。まず、その前提でこの間、特定で指定してきた地域の検証は必要だと思っています。イノベーションについてやりたいことは、公立大学という知の拠点に情報学研究科が入り、そこで知が1つ出てくる、それを、すぐには社会実装できないので実験をやって事業化をする流れをつくっていき、それを大阪ビジネスパークや他でやるかは今後の調整となるが、そういった場所を実証フィールドとして使っていく。それをどう広げていくのかという中で、NTTのQUINTBRIDGEが非常に盛況で、梅田ではない、ここならではのよさがあるのではと思っています。今回の資料P7の中心に記載しましたが、民間都市開発もあるが、既存ビルのイノベーションにあ

わせてそういう共創空間を入れていきたいと思います。

- ・ 周りにも界限性のあるにぎわい空間を活用と記載していますが、これは、周辺の飲み屋街をイメージしており、そのポテンシャルは引き続き、きっちり活かしていきたいなと思っています。その中で、特にソフトの具体的な取り組みはここにまだ入れておらず、それらについては引き続き関係者と調整して一定の考え方を整理したいと思っています。このソフトの取組を具体化していくことで、イノベーションで何をめざしているか、国際観光拠点とはどういったものか、また、ほかの特定都市再生緊急整備地域との違いということを示すことができると思いますので、その具体化した基本的な考え方は3月に実施予定の大阪城公園周辺地域都市再生緊急整備協議会会議にて示したいと思います。
- ・ また、野澤先生からご指摘いただきましたエリアデザインの件は景観に関する事項だと理解をすれば良いのでしょうか。

野澤 明治大学政治経済学部教授

- ・ 見た目の景観的な話だけではなく、アーバンデザインといえますか、ごちゃごちゃ感を如何に大事にするかだと思っています。東京では、ごちゃごちゃしたところをスクラップアンドビルドして、地域の文脈とは関係ない1Fからガラス張りのものが開発され、まち並みの連続性も分断されてしまいます。最近、国交省でも共感される都市再生、共感される再開発はどうあるべきかという議論をスタートさせています。景観的なデザインもそうですし、その中に入るコンテンツも関係します。そのまちのコンテクストをきっちりと活かしたようなものをいかに入れて、まちの連続性やこれまでの歴史、文化を育んでいくためのルールづくりが必要という話であり、単に綺麗な景観をつくれれば良いという話ではないということです。

山田 大阪市計画調整局長

- ・ 森之宮の開発を検討していた際に嘉名先生から同じ話があり、それぞれの場所の特性があるかと思っています。森之宮でもそういったことを踏まえながら計画もやっており、大阪ビジネスパークは既成市街地が一定できている中で、次にどうしていくかについて、地権者の方と調整しながら考えていかないといけないと思っています。具体的な話になると、もう少し深掘りをする必要があるので、引き続き検討をさせていただきたいと思います。
- ・ ご指摘いただいた点についても反映しながら、3月に向けて引き続き検討して参りたいと思っていますので、今回は素案として今、現時点の考え方を示した形となっておりますことをご了承いただければと思います。

野澤教授 明治大学

- ・ 補足ですが、銀座らしさを追求して頑張っている銀座ルールやデザイン協議等そういうイメージです。大丸有も連鎖型の開発をやっていますが、大丸有全体のデザインまちづくりガイドラインがあり、それに即して公開空地を連鎖させながら、それぞれが建て

替えあるいはリノベーションしていくということで、京橋は全部がスクラップアンドビルドではなくリノベーションの方がむしろまちの歴史を継承していく部分もあるので、それを上手にミックスしながら、連続性があり、京橋、森之宮、大阪ビジネスパークそれぞれがその街らしさを追求していくような、むしろソフト面のデザイン協議をしていくことや繋がっていくということを次のステップとして盛り込むと良いのではと思っています。

部会長：正垣 大阪市計画調整局開発調整部長

- ・ ありがとうございます。
- ・ 本日の皆様方ご意見を受けまして、大阪ビジネスパーク駅周辺地域部会や、大阪城東部地区まちづくり検討会という別の会議体もありますので、調整をしながら、大阪城公園周辺地域都市再生緊急整備協議会会議の場で方針を取りまとめていければと思っていますので、個別にご意見、ご指導を賜ると思いますが、よろしく願いいたします。
- ・ 本日の議事はこれですべて終了となります。本日は皆様、活発なご意見、ありがとうございました。